

チーフストラテジスト 瀧山裕二の Weekly Letter

第98回「貿易統計について」

- 昨年12月25日に財務省より2025年11月分貿易統計（輸出確報、輸入速報）が発表されました。少し時間は立っていますが、今週のウィークリーレターでは、この貿易統計の内容についてお伝えします。

～2025年11月分 貿易統計～

昨年11月の我が国の輸出は9兆7,094億94百万円（前年比：+6.1%）、輸入は9兆3,927億95百万円（同：+1.3%）となり、貿易収支は3,166億99百万円の黒字（前年同月は▲1,208億9百万円の赤字）となりました。黒字は6月以来5か月ぶりでした。輸出で増加した品目は、半導体等電子部品、医薬品、非鉄金属でした。一方、減少した品目は自動車でした。この自動車の輸出減少はアジア地域での減少によるものでした。輸入で増加した品目は、原動機、半導体等電子部品、医薬品でした。一方、減少した品目は、液化天然ガス、石炭、通信機でした。

裏面グラフ1をご覧ください。このグラフ1は1989年1月から毎月の貿易収支を示しています。2011年頃までは貿易収支は基本的にはプラス（=貿易黒字）であったことが分かりますが、2011年～2015年や2022年～現在までは、赤い棒グラフがマイナス（=貿易赤字）になっています。2011年以前と全く違う状況です。このようになったのは、日本の輸出企業が円高を回避するため工場を海外に移し、国内での製造力が低下し、結果として輸出力が低下したことを示しています。

～自動車の対米輸出と株価～

このような状況のもと、日本の自動車産業は国内にも製造工場を残し、雇用を維持していました。現在、日本の代表的な輸出品の一つは自動車ですが、昨年の米国との関税政策変更により、自動車産業は大きな痛手を負いました。私は自動車の対米輸出が大きく落ち込むと想定していたのですが、徐々に回復基調にあります。

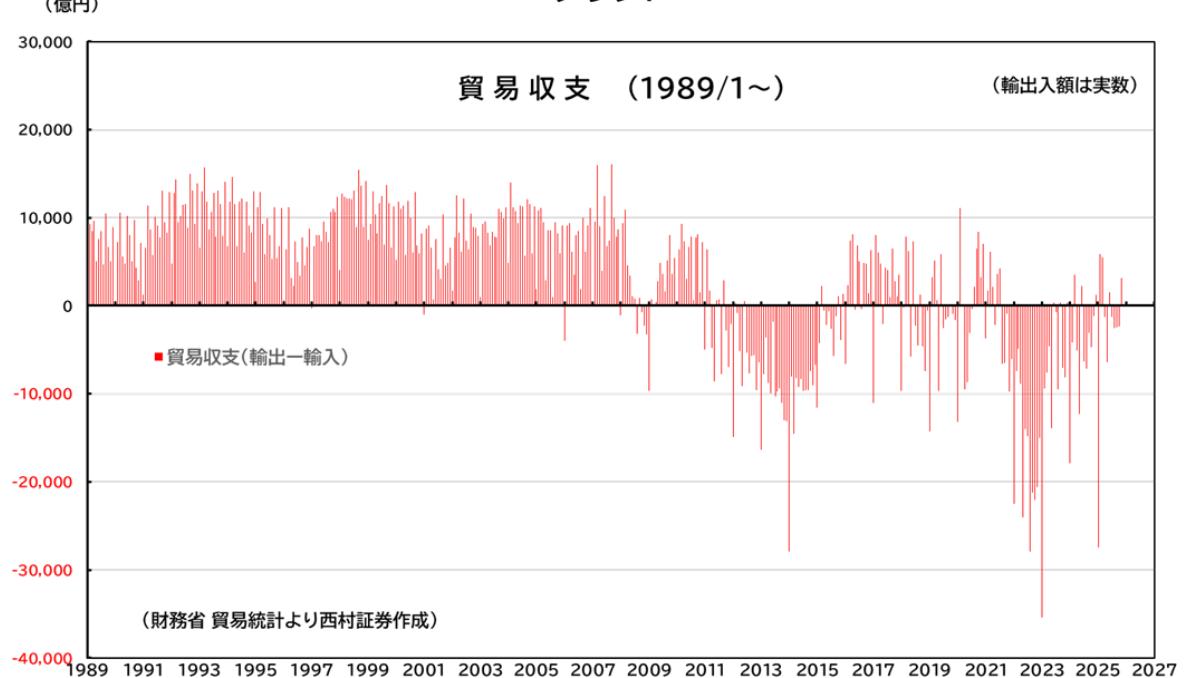
裏面グラフ2をご覧ください。このグラフ2は自動車・トラックの対米輸出金額の前年同月比を示しています。期間は2023年1月から直近（11月）までです。このグラフをみると、昨年4月から前年同月比でマイナスとなっていましたが、直近の11月にプラス転換となりました。自動車に対する関税率も15%に決まり、不確定要素が減ったことで自動車輸入の回復につながったと考えます。前年同月比の底入れ回復と時を同じくするようにトヨタ自動車の株価は回復基調となっています。

今後、関税発動前の前倒し輸出が多かった2024年12月～2025年3月に応答するため、前年同月比が一時的に落ち込むかもしれません、4月以降は再びプラス基調を維持すると考えます。

このように株価は輸出金額の前年同月比や業界動向などを織り込みながら動きます。勿論、為替動向に左右されるところもありますが、企業を取り巻く状況を確認しその変化を先取りすることで運用収益を得られると考えます。

これからも、変化を先取りする情報をお伝えしていく所存です。

グラフ1



グラフ2

